

圧倒的な成功をかちとった6.5労働者集会

日刊 労働千葉

82-6-8 No.1064

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇五三（二二）七二〇七

組織内外から一、四三〇名が結集し、二臨調攻撃粉碎へ総決起を確認

「6.5労働者集会」は、千葉市民会館大ホールを埋め尽くす一、四三〇名の労働者が結集して圧倒的な成功をかちとった。「6.5集会」は、今日の激しい二臨調「行革」攻撃の真只中で、しかも総評、国労、動労中央などが屈服と混迷を深める中で、この攻撃に対し真向から対決する立場を鮮明にし、真に闘う労働者人民の進むべき道を明らかにする集会として圧倒的にかちとられたのである。

各界から連帯のあいさつ

三里塚・国鉄を基軸に、即ち戦線の拡大強化を

動労千葉は、「6.5集会」の成功にむけて、早くから県内・都内主要駅頭や団地などのビラまき宣伝、さらに県内外の各労組・団体などへの参加申請行動など、本部・支部一体となった取組みを行ってきた。こうした積み上げの成果として、集会当日は、18時開会をまちかぬたかのように、また準備委員が会場のかざりつけをやっている最中の16時ころから参加者が三々五々会場に詰めかけた。

集会は、18時すぎ、片岡教宣部長の司会で開会された。すでに椅子席は、ほぼ満席。奥川委員長の主催者あいさつに続いて、各界よりの連帯のあいさつが、社会党県本部市川副委員長、支援女岡浅田代表世話人、全造船石川島分会佐藤委員長、全金本山労組中野書記長、三里塚反対同盟北原事務局長、から各々行われた。

つぎに、部落解放同盟荒木支部村上教宣部長と、葛城部東小の辻岡前教頭から、この向の権力・解同大阪府連内反動分子一体となった弾圧に抗し、「狭山・三里塚・反天皇の闘いを一層強化する」との力強い

特別報告が行われた。

三里塚を闘う労働運動の強化・拡大で、国鉄労働運動解体攻撃を粉碎しよう

中野書記長が基調報告

カンパピールに引き続いて、中野書記長から約一時間半にわたって「基調報告」が提起された。中野書記長は「基調報告」の中で、

- ① 今日の大膽な国鉄赤字の原因が、中長期計画（一九五七年）以来数次にわたる長期計画にもとづく膨大な借入金による設備投資と年々増加する支払い利息にあること。
- ② 従って国鉄は、戦後日本帝国主義の復活と発展と高度成長を支えてきたが故に、今日の体制的ゆきつまりと危機と一体のものとして、今日の国鉄危機に集約され、あらわされている。
- ③ 臨調「行革」行撃は、この「国鉄危機」体制危機をかき分け、労働者を企業防衛主義のもとに屈服させ、同時に、国鉄労働運動の「分割」「分断」による全面的破壊をもくろんでいる。
- ④ 臨調「本部報告」は、軍拡と競争入替へのものを動員せんとする、臨調「行革」攻撃の突破口をなすものである。



軍国化=改憲にむけた反動攻撃、「臨調」を粉砕せよ！（6月5日、千葉市民会館大ホール）

- ⑤ この時に、臨調の目的は、国鉄赤字の解消であるから、国鉄も私鉄も労働者の働き度を実現すれば、臨調攻撃はかわりせざる誤った、デマ方針を流し、「働け運動」「告げろタレコミ」「警察労働運動」を推進する動労「本部」は、臨調の先兵だ。
 - ⑥ 今こそ、813決戦ストの成果と教訓を打ち固め、三里塚を闘う労働運動の強化・拡大をはかり、三里塚と国鉄を基軸に闘おう。
 - ⑦ 6.5集会は、この総反撃のための一歩であり、動労千葉は全職場から、あらゆる作業過程を見直し、長期非全協力闘争の全面的な闘いを組織する、と方針を提起した。
- この「基調」をうけて、臨調攻撃を闘う国労、全通、自治労の労働者から決意表明が行われ、続いて、権力から不当な出頭命令攻撃をうけている6名の仲間が登壇し、代表として大須賀成由支部書記長から固い決意表明をうけた。
- 最後に、中野副委員長の内会あいさつ、インター合唱、奥川委員長の首飾で、団結カンパニーを三唱して成功裡に終了した。

組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！